

ひがしあき 議会だより

2025 No.320
7 月号

人形劇で地元の民話を後世に

P12にて紹介

新議長・新副議長決まる
第2回定例会主な議案
一般質問
かがやくまちのひと

2～3
4～5
8～11
12



議会HP



5月20日の令和7年第1回臨時会において、常任委員会委員を選出しました。これから2年間よろしくお願いいたします。

総務経済常任委員会



- 委員長 鈴木 伸和
- 副委員長 山田 豪彦
- 委員 稲葉 義仁
- 委員 須佐 衛
- 委員 内山 慎一
- 委員 定居 利子

これからどのような活動を目指しますか

所管する産業経済の振興を基本とし、地域内経済の循環を主テーマとして様々な産業分野を学びながら、関係者の方々からの意見聴取や調査研究活動を行う。

文教厚生常任委員会

- 委員長 西塚 孝男
- 副委員長 山田 直志
- 委員 楠山 節雄
- 委員 笠井 政明
- 委員 栗原 京子
- 委員 村木 脩



これからどのような活動を目指しますか

老朽化した水道管が問題になっている水道事業、見直しが行われている町防災計画、部活は地域で行う地域移行問題、不登校の増加など町民生活に係わる問題を調査して提案していきたい。



議長 栗原 京子

これからどのような活動を目指しますか

このたび東伊豆町議会議長に就任いたしました栗原京子です。子育て支援や高齢者の安心な暮らし、観光振興など、町の未来を見据えた取り組みに議会一丸となって努めてまいります。町民の皆様にとって身近で開かれた議会を目指し、皆様の声に真摯に耳を傾けながら、笑顔あふれる東伊豆町を共に築いていきたいと願っています。今後ともご支援をお願いいたします。

新議長・新副議長に聞きました

これからどのような活動を目指しますか

町民の皆さんにとってもっと身近で開かれた議会となれるよう、しっかりと議長をサポートしながら、様々な機会で見交換の場を設けるなど、気軽に声をかけてもらえるようになること、また頂いた意見を議会の提言として取りまとめ、よりよい町づくりに貢献していくことを意識して取り組んでいきたいと思います。



副議長 稲葉 義仁

議長選挙結果	栗原京子 11票	須佐 衛 1票
副議長選挙結果	稲葉義仁 9票	須佐 衛 3票

第2回
定例会

学校整備に向けて周辺地の測量へ

令和7年第2回定例会を6月12日から13日までの会期
審議した結果、全て原案通り可決しました。また、一般質

で開催し、条例改正2件・財産の取得2件・補正予算3件などを
問は8人の議員が登壇しました。(8～11ページ参照)

Pickup ① 学校整備に向けて周辺地の測量 2,362万円



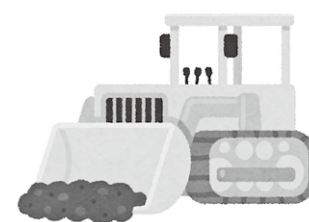
新しい学校を創るために
熱川中学校周辺の土地が活
用可能か、調査・測量、道
路設計を行います。

Pickup ② 妊婦健康診査交通費等支援 196万円

予算で計画した分娩施設
通院費用補助が見直されたた
め。町は独自に検診のた
めの通院に60分以上かか
る妊婦さん交通費（車、電
車、タクシー）の8割を補
助します。



Pickup ③ 縦貫道残土で農地造成へ 300万円



縦貫道のトンネル
工事の残土を使い稲
取地区の2カ所で農
地造成をするために
換地等の調査を行
います。

Pickup ④ 津波等に強い堤防へ 292万円



稲取漁港の田町堤
防、離岸堤防の耐震・
津波対策工事を県が
行います。その事業
の一部を町が負担し
ます。

Pickup ⑤ 観光コンセプト検討 330万円



町をどういう観光地
にするのか。地域ごと
の方向性などを話し合
い、まとめます。

Pickup ⑥ カーナビテレビ視聴料 159万円



全国的に発覚した
TV付きカーナビ
ゲーションのNHK
受信料未払い問題に
おいて当町でも調査
を行ったところ、車
両12台分のNHK受
信料未払いが発覚し
たため一括で支払
います。

Pickup ⑦ 5歳児検診開始

町の単独事業として、5歳児の健康診断を
保健センターで行います。

その他委員会

◎委員長 ○副委員長 ☆委員

議 員 名	山田豪彦	鈴木伸和	楠山節雄	笠井政明	稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐衛	村木脩	内山慎一	定居利子	山田直志
組 織 名												
総務経済常任委員会	○	◎			☆			☆		☆	☆	
文教厚生常任委員会			☆	☆		☆	◎		☆			○
議会運営委員会	☆	☆		◎			☆					○
議会広報編集委員会	☆	☆		○	◎	☆						☆
監査委員											☆	
稲取財産区管理会							☆		☆	☆		
東河環境センター議会			☆				☆			☆		
伊豆斎場組合議会	☆								☆			
一部事務組合下田メディカルセンター議会				☆								☆
駿東伊豆消防組合議会		☆						☆				
東伊豆町国民健康保険運営協議会	☆			☆				☆		☆		
東伊豆町都市計画審議会									☆			☆
東伊豆町空家等対策協議会		☆										
東伊豆町社会福祉協議会							☆					
伊豆横断道路建設促進期成同盟会		☆				☆						
伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会						☆						
河津下田道路及びアクセス道路建設期成同盟会						☆						
伊豆縦貫自動車道「天城峠道路」及びアクセス道路網建設促進期成同盟会						☆						
東伊豆町町民安全連絡会議						☆						
提案型まちづくり補助金審査委員会		☆					☆					

※監査委員は、町の事務を質疑・審査できる立場であることから、以下のような慣例がある。

- ・常任委員会以外の委員に所属しないこと。
- ・一般質問をなるべく控えること。

第2回定例会の議案と各議員の賛否

○ 賛成 × 反対
※議長は採決に加わらない

議 案 名	採決結果	山田豪彦	鈴木伸和	楠山節雄	笠井政明	稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐衛	村木脩	内山慎一	定居利子	山田直志
条例の一部改正													
議案第35号 会計年度職員の給与等に関する条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第36号 国民健康保険税条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
補 正 予 算													
議案第39号 令和7年度一般会計補正予算（第1号）	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第40号 令和7年度国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第41号 令和7年度水道事業会計補正予算（第1号）	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
委員選任の同意													
同意案第16号 固定資産評価審査委員会委員の選任	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
同意案第17号 教育委員会委員の任命	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
財 産 の 取 得													
議案第37号 災害用バイオトイレ	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
議案第38号 災害用トイレトレーラー	可決（11：0）	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○

令和7年5月20日開催
第1回臨時会の議案と各議員の賛否

○ 賛成 × 反対
※議長は採決に加わらない

議 案 名	採決結果	山田豪彦	鈴木伸和	楠山節雄	笠井政明	稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐衛	村木脩	内山慎一	定居利子	山田直志
専 決 承 認													
専決承認第2号 町税賦課徴収条例の一部改正	可決（11：0）	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
委員選任の同意													
同意案第11号 町監査委員の選任	可決（11：0）	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
同意案第12号 稲取財産区管理会委員の選任	可決（11：0）	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
同意案第13号 稲取財産区管理会委員の選任	可決（11：0）	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
同意案第14号 稲取財産区管理会委員の選任	可決（11：0）	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
同意案第15号 固定資産評価員の選任	可決（11：0）	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○



うちやま 慎一 議員



Q 幼小中学校の一貫校の候補地は

A 総合的に熱川中学校が望ましいと判断

Q 委員会からは熱川中学校が望ましいとの答申であった。稲取地区に選定すれば全児童生徒が歩いて通学できるが、熱川中学校では電車、バス等の通学となり、費用が掛かる。利便性や財政負担があり経済性に欠けるが、その辺の配慮はしなかったのか。



説明会の様子

A 学校教育環境整備委員会に対してはどのような教育が将来の子供たちにとっていいのかを一番に検討いただくよう依頼し、その結果熱川中学校が望ましいとの答申となったと理解している。つまり町の財政負担よりこれらの児童生徒の教育環境を優先して方向づけをしたということである。

Q 熱川中学校を候補地として「アクセス道路の建設」「敷地拡張のための造成」の設計業務委託を予定しているがその結果で候補地の変更はあるか。

Q 国道の白田橋上流側への側道橋の要望は

A 現状では考えていない

Q 令和4年の5月に下田土木事務所に側道橋の要望を行ったというが、報告会の意見も踏まえ再度要望する考えはないか。



路側帯が狭い国道の白田橋

A 下田土木事務所に側道橋の設置について投げかけをした際、増設は困難との回答があった。今後学校の統合なども踏まえ、地域や人の流れ、町並みが変わっていくと考えるが、現状はそこまで至っていない。状況が変わり次第、地域の方の意見も聞きながら適切な対応を検討する。

Q 仮に側道橋の設置を検討する場合、現段階で事業費はどれぐらいかかるか。また、国、県、町の負担割合はどうなるか。

A 令和4年度の試算で4億5千万円、現在の相場で6億8千万円ほどになると推測。また側道橋前後の歩道整備が重要であり、そこにも多大な事業費が必要。負担割合については事業により補助要件が異なるので現段階では答えられない。

Q リフォーム振興事業への認識は

A 毎年の実施上からも意義のある事業だ

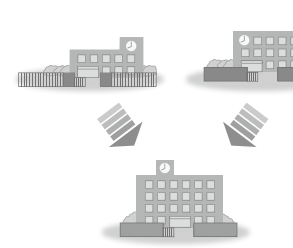


非住宅建物まで支援の拡大は

Q 補助対象を住宅にしているにもかかわらず「住宅リフォーム振興事業」としてない理由は。 **A** 創設当初から「リフォーム振興事業」という名称を使用している。一方補助金の交付要綱では「東伊豆町住宅リフォーム振興事業補助金交付要綱」となっているが特に深い理由はない。 **Q** 非住宅を補助対象としていない理由は **A** 事業の一番の目的は町民の快適な住環境の充実にあり、幸福度を向上させる事である。一方、店舗等非住宅については、考え方としては経済対策的な意味合いが強いので、小規模事業者持続化補助金など既にある国・県の補助制度を活用していくことも必要。 **Q** 非住宅まで支援対象を拡大する考えは **A** 昨年度の補助金は97件で一千万円を超えており、制度スタートから20年経過しているが人気の事業で、毎年補正対応を図っている。補助対象を拡大する事は簡単な問題ではないが事業者支援は必要との認識もある。必要に応じてふさわしい柔軟な対応の検討も必要と感じているが、先ほど説明した国・県の補助制度を組み合わせた活用を考えも持ってもらえればと考える。

Q 小中一貫校完成まで統合はしないのか

A 選択肢の一つとして段階的な統合も検討する



老朽化が進んでいるため統合して新しい校舎へ

Q 令和4年の答申を受け、今まで統合に向けた基本方針など聞こえて来ないが。 **A** これまで学校教育環境整備委員会、教育の考え方やその具体的な方策などを、基本構想に関わる部分を十分検討いただいた。答申を踏まえ、基本構想、実行計画を策定していく。計画策定においては専門家の知見など念頭に置きながら庁内プロジェクトチームで検討していく。 **Q** 統合は行わないといけないと感じているのか。 **A** 児童、生徒数の減少を考えると今のままだと令和16年ごろに複式学級になるため、統合は必要と考える。また、財政面からも4校建て替えは現実的ではない。 **Q** 測量設計調査後、一貫校の候補地は変更になる可能性はあるのか。 **A** 全ての可能性を排除するわけでは無いが現在では熱川中学校が最適と考えている。 **Q** 小中一貫校完成まで統合しないのか。段階的な統合の検討は。 **A** 選択肢の一つとして段階的な統合も検討する。



くすやま 節雄 議員



かさい 政明 議員



Q 基本方針その他スケジュールはいつまでに行うのか。 **A** 基本構想は用地が確定した段階で作成。そこから基本計画など進めていく。



鈴木 伸和 議員

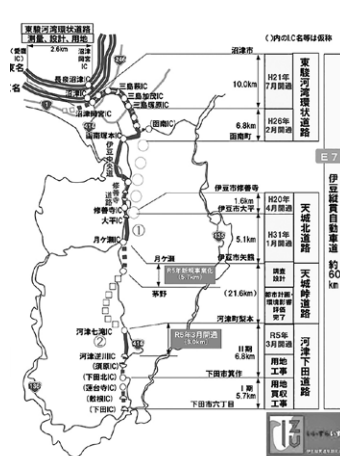


Q 伊豆縦貫自動車道事業に伴う町の役割は

A 要望活動をしっかりとやっていきたい

Q スピードアップに向けて予算の確保以外に重要な課題は。
A 明確な答えはないが、今や隣市町で受け入れることで処分費の抑制が図られ、スピードアップにつながると思う。地域が連携して受け入れ態勢

Q 早期全線開通に向けて、町として独自の要望活動等の実施は。
A 6つの期成同盟会にて合同で要望活動を実施している。今後も合同であるが要望活動をしっかりとやっていきたい。



伊豆縦貫自動車道の概要図

を整えることがとても重要。

Q 各市町で受入れが進む建設発生土について町の予定は。
A 県営の中山間地域農業農村総合整備事業で稲取地区の二か所に基盤整備を予定。一か所目は、小杉山工区（最終処分場西側）に4万³m³・0.9ha、2か所目は、中川工区（東電稲取変電所山側）に4万9千³m³・1.3haに農地を整備。

Q 田中見高集落道の計画についての見解は。
A 河津町の敷地内の事業であるが、当町としても重要な路線であると考え、これまでと同様に整備計画を進めるために河津町と協力し事業を進めていきたい。

Q 「港の朝市」をどう見ているか

A 東伊豆町にとって大切な観光スポットである



山田 豪彦 議員



Q 「港の朝市」を利用者の視点でみてどのように考えているか。
A 「港の朝市」は平成9年にスタートし、東伊豆町を訪れるお客様にとって立ち寄るべき観光の目的地として定着をしている。利用者目線からみた場合、駐車場の1階部分なので少し薄暗く感じることもあるかなという印象はある。また看板の整備などで目立つようにしてはいるが、道路側からは見えないため、会場内の雰囲気がかげえないといった印象



賑わいを見せる港の朝市

Q 会場内の整備の考えは。
A 建設の目的はあくまでも駐車場なので、構造的な部分や規制もあるため、その辺りに注意しながら要望に応じていきたい。今後運営委員会の方々と話し合い、意見を伺いながら協力、応援していければと思う。

Q 「港の朝市」がある程度の店舗数を維持して更に活性化できるような仕掛けができないか。
A 施設整備はハードルが高いので、インキュベーション的な意味付けの仕方、「港の朝市」に出店し、いい成績を収めた場合には町の中に展開していくというように考えていくという形はあるかもしれない。

インキュベーション施設とは
 起業家の事業拡大や成功を支援する目的のもと、通常よりも安価な賃料で提供される施設

Q 統合までの子供たちをどうするのか

A 統合前でもやれることもあると考え検討したい



稲葉 義仁 議員



Q 学校間の交流について、具体的な計画や活動として実現した事、現在検討中の事はあるか。
A 交流活動は大変重要ではあるが、あくまでも教育活動の手段である。授業時間の確保が最優先事項となっている中、新たな行事等を企画することは困難な状況ではあるが、今年度は中学校において合同の音楽発表会を9月に行う計画が進んでいる。今後もICTを活用した合同事業や目的地を同じにした遠足の実施



みんなで楽しく学べる環境を

Q 賀茂地区の将来を考えた場合、学校間の交流活動は必ず必要になると考える。現在の学校環境の中でも地域を越えた交流の知見を深めるという考え方もあると思うが。
A 行政としても、子供たちのためにやれることはしっかりとやっていきたい。

Q 賀茂地区の将来を考えた場合、学校間の交流活動は必ず必要になると考える。現在の学校環境の中でも地域を越えた交流の知見を深めるという考え方もあると思うが。
A 行政としても、子供たちのためにやれることはしっかりとやっていきたい。

等について模索していきたい。
Q 一定の人数が確保された環境で子供の関わり合いを重視した教育を進めることが統合の目的であり、これが早急に叶わないのであれば実現までの間、それに代替するものを用意し、子供たちの教育環境を少しでも整備していく考え方も必要と思うが。

Q 町民の声をもっと聴いては

A 学校統合では町民の声を反映させた



山田 直志 議員



Q 地域活性化の3要素「よそ者、若者、馬鹿者」と言われている。岩井町長はいわゆる「よそ者」であり、まちづくりの上では新しい視点で見ることや当たり前の価値見直しなどが出る。一方で、町民の生業や特に高齢者の暮らしなどについては見聞が足りていないと思われる。皆で課題を解決するためにも町民との対話する場を積極的に設けるべきではないか。
A 町長と語ろう町づくりの会、白田片瀬コンパクトシティ検討会議、観光まち



町長と語ろうまちづくりの会

Q 町長を見たことがない。会ったことがないとの町民の声を良く聞く。役場のOBでも町は何をやるうとしているのか分からないと言っている。一方で、学校統合では全員協議会で受けた説明から少し変わってきたように感じた。町民の声を聞き、対応したのではないか。
A 課題解決のために町民と一緒に同じ方向を向いてやっていきたい。説明が足りていない所は努力したい。学校統合では、町民の声を聞いて反映させた。

づくり等、各テーマごとの議論、検討の場で深掘りしているのが現状であり、結果的に産業関係者との意見交換が多くなったと認識しているところでもあるので、今年度はあじさい学級で意見を伺うなど、高齢者の日常生活について聞いた、情報発信できればと考えている。

かがやく まちのひと

Vol.22

今回は、柿沼悠子さんが奈良本に移住してきたことを機会に結成し、東伊豆町立図書館を中心に活動している人形劇団「あしたば」の30年間の活動について伺ってきました。



代表の柿沼悠子さん



天狗のくれたはさみ石

「天狗のくれたはさみ石」で、他にも初めての作品「太田の大ガニ」をはじめ「築城石物語」、「ひなのつるし飾り」等があります。図書館で年

「いつ頃からどんな方々で活動していますか。」
川崎に住んでいる頃から人形劇の活動をしていました。当町へ移住して子供達に本物の人形劇を見せてあげたいと図書館で人形劇を開催したところ大好評。その当時に幼稚園児を連れて観にきたお母さん達が今ではメンバーに加わり、お孫さん達の喜ぶ顔が見たいと頑張っています。平成8年から現在まで約30年活動しています。今となればその名のとおりだと感じますが、発足当時、「今日摘んでも明日には芽が



手作りの人形たち

に1回、町民文化祭では、毎年公演しています。平成12年には、広島で開催された国民文化祭で静岡県代表として出演しました。
「どんな思いで開催していますか。」
一番の理解者は、拠点とさせていただいているこの町の図書館だと思っています。練習場所の提供から倉庫まで提供していただいています。又、長年サークルを支えてくれている皆様にも感謝の気持ちを忘れずに活動しています。毎週水曜日の午後2時から4時に図書館2階で練習などの活動をしています。興味のわいた方、参加してみたい方は是非見に来て下さい。大歓迎でお待ちしております。

議会広報編集委員会

委員長	稲葉義仁
副委員長	笠井政明
委員	山田豪彦
委員	鈴木伸和
委員	栗原京子
委員	山田直志

編集後記

本定例会の一般質問では、4名が学校統合をはじめとした教育関連の課題を取りあげた。学校の統合については、令和元年11月に小中一貫教育研究会により目指す方向が規定されて以来、5年以上が経過している。翌年からコロナ禍が続き、町のおかれた状況も大きく変化したという事情はあるものの、「時間がかりすぎ」という印象を受けたとしても否定できない。今から取り組める事、段階的に取り組む事をしっかりと整理して進めていくことにより、そういった印象を払拭し、今いる子供たちがより良い環境で学ぶことができるよう取り組んでいきたい。

(稲葉)